

公益財団法人 日本バレーボール協会  
第9期・2018年度 事業報告  
(2018年4月1日～2019年3月31日)

## 1. 事業の概況

### (1) 男女日本代表チーム・各カテゴリーの主な戦績

- シニア男子 第18回アジア競技大会 5位
- シニア女子 2018女子バレーボール世界選手権 6位
- U-23女子 AVCカップ 準優勝
- ジュニア男子 第19回アジアジュニア選手権大会 (U-20) 13位
- ジュニア女子 第19回アジアジュニア選手権大会 (U-19) 優勝
- ユース男子 第12回アジアユース選手権大会 (U-18) 優勝
- ユース女子 第12回アジアユース選手権大会 (U-17) 優勝
- ビーチ男子 ビーチバレーボール ワールドツアー2018 3 Star  
高橋・石島ペア 17位
- ビーチ女子 ビーチバレーボール ワールドツアー2018 3 Star  
石井・村上ペア 3位

ニア男

### (2) 今年のトピックス

- ① 第18回女子世界選手権を8年ぶりに横浜、札幌、神戸、浜松、名古屋、大阪各地で開催。日本を含む24カ国が世界一を競い、セルビアが初優勝を果たした。
- ② ビーチワールドツアー (3 star レベル) を お台場で開催した。
- ③ 従来のワールドリーグ (男子)、ワールドグランプリ (女子) を統合し、バレーボールネーションズリーグ (Volleyball Nations League - VNL) と改称して第1回VNLを開催した。
- ④ 国際親善試合を十数年ぶりに船橋市で開催した。
- ⑤ 東京2020以後のスポーツ人気の後退傾向をふまえた2024年までの中期経営計画を策定した。

### (3) 決算について

今年度は過去最悪の728百万円の赤字予算という苦しい状況の中、中期経営計画に基づき収入の増加、費用の削減に取り組んだ。収入面では入場料は予算に達しなかったが、その他の収入項目で増収となった。費用面では、大会経費の削減などに取り組んだ結果予算より大幅に削減できた。その結果、収入は予算を214百万円上回る2,833百万円となり、費用は予算より297百万円減少の3,049百万円となり、税引き後の最終損失は212百万円となった。

## 2. 事業内容

### (1) 競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

#### ①男女日本代表チーム及び選手の育成・強化事業

全国の社会人、大学生、高校生の中から選抜された有力選手による日本代表チームを編成し、国際競技力向上を図るため、以下の諸事業を実施した。

#### 1) 男子・女子シニア日本代表チームの戦績と強化策実施

男女とも新体制での2年目を迎え、2020年東京オリンピックでの目標達成（男子ベスト4、女子メダル獲得）のためにチーム強化を継続実施した。本年度新設された16カ国参加のネーションズリーグでは、男子は12位、女子は10位で決勝リーグ進出はならなかったが、世界ランキングの上位国を破る試合も展開した。また、アジア競技大会（於インドネシア）では、男子は世界選手権の日程上、シニアチームに準ずるチームで参戦し5位。女子は4位となり両チームとも入賞した。2大会ぶりに世界選手権に出場を果たした男子だが、主力選手の怪我なども影響し17位。女子は優勝したセルビアに予選ラウンドで勝利したものの6位で終了した。

2018年10月公表の世界選手権等結果が反映された世界ランキングは、男子は1つ上げて11位、女子は昨年と同様で6位を維持している。

■男子：国内合宿・NTC（ナショナルトレーニングセンター）、薩摩川内市で実施  
海外合宿・オランダ、フィンランド、中国にて実施

■女子：国内合宿・NTCを中心に実施  
海外合宿・イタリア、アメリカで実施

2) 男子・女子U-23日本代表チーム強化合宿

シニア選手に一番近い次世代カテゴリ選手で、2019年開催のアジア選手権等への出場も目論み強化合宿を行う。女子は、AVCカップに出場し準優勝した。

■男子：国内合宿・NTCを中心に実施

■女子：国内合宿・NTC、薩摩川内市で実施

注) U-23チームとは、2019年の大会出場を予定するため1997年1月1日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム

3) 男子・女子ユニバーシアード日本代表チーム強化合宿

2019年度に開催されるユニバーシアードナポリ大会（2年に1回開催）でのメダル獲得を目標として選手強化合宿を行う。男子は、AVCカップに出場し3位、女子はアジア東部地区選手権で優勝した。

■男子：国内合宿・NTC 他で実施

■女子：国内合宿・NTC 他で実施

注) ユニバーシアードチームとは、主に大学生を中心に構成される日本代表チーム

4) 男子・女子ジュニア日本代表チーム強化合宿

男子チームは第19回アジアジュニア選手権大会（U-20）で13位、女子チームは第19回アジアジュニア選手権大会（U-19）で優勝し2019年の世界選手権出場権を獲得した。

■男子：国内合宿・NTC で実施

■女子：国内合宿・NTC で実施

注) ジュニアチームとは、男子が1999年1月1日以降に、女子が2000年1月1日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム

5) 男子（U-18）・女子（U-17）ユース日本代表チーム強化合宿

男女共に第12回アジアユース選手権大会で優勝し2019年世界選手権出場権を獲得した。

■男子：国内合宿・NTC 他で実施

■女子：国内合宿・NTC 他で実施

注) ユースチームとは、男子が2001年1月1日以降に、女子が2002年1月1日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム

②競技活動を行う選手の競技・練習環境の整備、インテグリティに関する啓発、情報発信

③将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業

1) 全国小学生・中学生・高校生身長選手発掘事業

将来有望な長身選手の発掘、育成、強化を目的に、公募および推薦によるオーディションを行い、選抜した有望選手の育成強化合宿を実施する。

そして、有望選手リストを中学生よりデータ化し、将来のオリンピックを見据えたターゲット選手を選定し、それらの選手の一貫指導（プロジェクトコア）を実施している。

④競技力向上にかかわるバレーボール技術の調査研究及びスポーツ医・科学の調査研究事業

1) 日本代表選手の体力測定評価、測定結果に基づくトレーニング処方立案と提言実施。

2) 日本チームとの対戦が想定される外国チームの戦力掌握を行う。

3) トレーナーを日本代表チームに派遣する。

4) 日本代表チームにドクターを派遣し、歯科・整形外科診断を中心に選手の健康維持、怪我防止及び傷害発生時の対処、薬剤の手配を行う。

5) アンチ・ドーピングの啓発を含むスポーツ・インテグリティ保護と強化をはかった。

⑤日本代表選手団の国際大会派遣事業

選手、チーム強化合宿の効果を検証するとともに、実戦（試合）を経て得られる技術、戦術他総合的な国際競技力向上を目的として以下の各大会に日本代表選手団を派遣した。

■男子：

シニア

・FIVB（国際バレーボール連盟）バレーボールネーションズリーグ 2018

（参加 16 カ国・総当り戦）

5/25～27 フランス／ルーアン

6/1～3 ブラジル／リオデジャネイロ

6/8～10 日本／大阪市中央体育館

6/15～17 ドイツ／ルートヴィヒスブルク

6/22～24 中国／江門

7/4～8 フランス／リール

・第 18 回アジア競技大会 インドネシア／ジャカルタ（8/18～9/2）

・2018 男子世界選手権 イタリア・ブルガリア（9/12～30）

※オープニングマッチ イタリア／ローマ（9/9）

アンダーエイジカテゴリー

・第 12 回ユース U-18 アジア選手権 イラン／タブリーズ（6/29～7/6）

・第 19 回ジュニア U-20 アジア選手権 バーレーン／マナーマ（7/21～28）

・第 6 回 AVC カップ チャイニーズタイペイ／台北（8/8～15）

・日韓中ジュニア交流競技会 麗水／韓国（8/22～29）

■女子：

シニア

- ・FIVB バレーボールネーションズリーグ 2018 (参加 16 カ国・総当り戦)
  - 5/15 ~ 17 ブラジル/バルエリ
  - 5/22 ~ 24 日本/スカイホール豊田
  - 5/29 ~ 31 ホンコンチャイナ/香港
  - 6/5 ~ 7 タイ/ナコンラチャシマ
  - 6/12 ~ 14 ポーランド/ブイドゴシュチュ
  - 6/27 ~ 30 中国/南京
- ・第 18 回アジア競技大会 インドネシア/ジャカルタ (8/18~9/2)
- ・2018 女子世界選手権 横浜・名古屋・浜松・神戸・大阪・札幌 (9/29 ~ 10/20)

アンダーエイジカテゴリー

- ・第 12 回ユース U-17 アジア選手権 タイ/ナコンパトム (5/20 ~ 27)
- ・第 19 回ジュニア U-19 アジア選手権 ベトナム/ハノイ (6/10 ~ 17)
- ・アジア東部地区選手権大会 中国/張家港 (7/10 ~ 15)
- ・日韓中ジュニア交流競技会 韓国/麗水 (8/22 ~ 29)
- ・第 6 回 AVC カップ タイ/ナコンラチャシマ (9/17 ~ 23)

(2) 国際大会開催事業及び国際貢献・交流事業

① 国際大会開催事業

1) FIVB バレーボールネーションズリーグ 2018

2018 年に新設された 1 年に 1 度開催されるリーグ戦方式の大会。2017 年まで開催されていたワールドリーグ (男子) とワールドグランプリ (女子) では、男女で異なる大会方式を採っていたが、このネーションズリーグでは男女大会が共通の大会方式のもと開催される。コアチーム (12 チーム) とチャレンジャーチーム (4 チーム) の計 16 チームが世界を転戦し 1 回総当たり戦を行う。

本年度日本では、女子予選ラウンド第 2 週 (プール 5) と男子予選ラウンド第 3 週 (プール 10) を FIVB と協力して開催した。

■FIVB バレーボールネーションズリーグ 2018 女子豊田大会

- ▶開催期間：5 月 22 日 (火) ~ 24 日 (木)
- ▶開催都市：愛知県豊田市 (スカイホール豊田)
- ▶参加国：日本、ベルギー、オランダ、アメリカ
- ▶試合数：延べ 6 試合《1 日 2 試合×3 日》

日付	試合結果	入場客数
5/22(火)	日本 0-3 アメリカ(20-25, 16-25, 23-25)	4,500
5/23(水)	日本 3-0 ベルギー(25-19, 25-20, 25-19)	3,500
5/24(木)	日本 0-3 オランダ(18-25, 18-25, 21-25)	4,900

■FIVB バレーボールネーションズリーグ 2018 男子大阪大会

- 開催期間：6月8日（金）～10日（日）
- 開催都市：大阪市（丸善インテックアリーナ大阪）
- 参加国：日本、ブルガリア、イタリア、ポーランド
- 試合数：延べ6試合《1日2試合×3日》

日付	試合結果	入場客数
6/8(金)	日本 0-3 ブルガリア(14-25, 21-25, 27-29)	3,250
6/9(土)	日本 0-3 ポーランド(16-25, 21-25, 20-25)	5,250
6/10(日)	日本 3-2 イタリア(21-25, 25-21, 23-25, 25-22, 15-10)	5,850

3) FIVB ビーチバレーボール ワールドツアー2018 3 Star

ワールドツアーはFIVB主催の毎年世界各地で開催されるビーチバレーボール界最高峰のイベント。大会は5段階のグレードに分かれ、今大会は上位から3番目の3 Star イベント。

- 開催期間：7月25日（水）～29日（日）
- 開催都市：東京
- 参加チーム数：本戦 男女各32（最大）
- 大会方式：本選=プールプレー（6プール×4チーム）&\*シングルエリミネーション（4ラウンド）  
 (\*)シングルエリミネーション方式：1回負けたら敗退のトーナメント方式
- 参加チーム：男子39チーム（日本9チーム） 女子33チーム（日本8チーム）
- 試合結果：男子—17位（高橋・石島）・25位（長谷川・清水）  
 女子—銅メダル（石井・村上）\*WT3 Star 以上での大会で日本メダル獲得初  
 5位（永田・熊田）9位（二見・長谷川）（鈴木・村上）

3) 2018 女子バレーボール世界選手権

4年に1度開催されるバレーボール界で最も歴史と伝統のある世界最大規模のイベント。5大陸で行われた予選には世界の国と地域から118チームが参加した。各大陸での予選を勝ち抜いた22チームに前回優勝・アメリカ、開催国・日本を加えた24チームが本大会に出場した。

- 開催期間：9月29日（土）～10月20日（土）
- 開催都市：横浜市（横浜アリーナ）、札幌市（北海きたえーる）、  
 神戸市（グリーンアリーナ神戸）、浜松市（浜松アリーナ）、  
 名古屋市（日本ガイシホール）、大阪市（丸善インテックアリーナ大阪）
- 参加国：24チーム

■参加国一覧

出場枠	チーム	出場枠	チーム
開催国	日本	北中米代表	カナダ
前回大会優勝国	アメリカ		キューバ
南米大陸代表	アルゼンチン		ドミニカ共和国
	ブラジル		メキシコ
ヨーロッパ大陸代表	アゼルバイジャン		プエルトリコ
	ブルガリア	トリニダード・トバゴ	
	ドイツ	アジア代表	中国
	イタリア		カザフスタン
	オランダ		韓国
	ロシア		タイ
	セルビア	アフリカ代表	カメルーン
トルコ	ケニア		

➤試合数：延べ103試合

■全日本女子 試合結果

第1次ラウンド

日付	試合結果	視聴率/入場客数
9/29(土)	日本 3-0 アルゼンチン(25-15, 25-13, 25-12)	9.7% / 8,385
9/30(日)	日本 2-3 オランダ(25-27, 25-16, 26-28, 25-19, 13-15)	12.1% / 7,800
10/1(月)	日本 3-0 メキシコ(25-15, 25-15, 25-15)	9.9% / 7,150
10/3(水)	日本 3-0 カメルーン(25-19, 25-20, 25-11)	10.5% / 9,850
10/4(木)	日本 3-0 ドイツ(27-25, 25-20, 26-24)	13.7% / 10,350

第2次ラウンド

日付	試合結果	視聴率/入場客数
10/7(日)	日本 3-2 ドミニカ共和国(25-17, 28-26, 22-25, 25-27, 15-11)	10.3% / 8,000
10/8(月・祝)	日本 3-0 プエルトリコ(25-22, 25-14, 25-18)	12.3% / 8,000
10/10(水)	日本 3-1 セルビア(15-25, 25-23, 25-23, 25-23)	13.8% / 3,000
10/11(木)	日本 2-3 ブラジル(25-23, 25-16, 26-28, 21-25, 11-15)	18.2% / 8,000

第3次ラウンド

日付	試合結果	視聴率/入場客数
10/14(日)	日本 0-3 セルビア(19-25, 18-25, 23-25)	11.8% / 8,000
10/15(月)	日本 2-3 イタリア(20-25, 25-22, 21-25, 25-19, 13-15)	13.6% / 8,000

決勝ラウンド (5-6位決定戦)

日付	試合結果	視聴率/入場客数
10/19(金)	日本 1-3 アメリカ(23-25, 16-25, 25-23, 23-25)	13.2% / 11,500

## ■最終順位

順位	チーム	順位	チーム	順位	チーム
1位	セルビア	9位	ドミニカ共和国	17位	韓国
2位	イタリア	10位	トルコ	18位	カナダ
3位	中国	11位	ドイツ	19位	アルゼンチン
4位	オランダ	12位	ブルガリア	20位	ケニア
5位	アメリカ	13位	タイ	21位	カメルーン
6位	日本	14位	プエルトリコ	22位	キューバ
7位	ブラジル	15位	アゼルバイジャン	23位	トリニダード・トバゴ
8位	ロシア	16位	メキシコ	24位	カザフスタン

## ② 国際貢献・交流事業

### 1) FIVB 及び AVC 役員等派遣事業

世界のバレーボール界の統轄組織である FIVB と、アジアのバレーボール界の統轄組織である AVC の理事職及び競技運営、審判規則、指導普及、医事ほか各種委員会の委員として本会の代表を派遣し、世界のバレーボール界の発展に尽力し国際的な貢献を行った。

本年は、FIVB 及び AVC 理事会のほか、各種会議に当該メンバーを派遣するとともに、国際レベルの指導者講習会への講師派遣や、FIVB および AVC が主催する大会へ競技役員ならびに審判員を派遣した。

### 2) バレーボールバンク事業

発展途上国に対し、競技会で使用したボールや全国のバレーボール愛好者から寄贈されたボール、バレーボール用器具等を寄贈して競技の普及を図り、同時に様々なバレーボール情報を提供し、スポーツ振興に寄与した。

併せて同事業の展開を通じ、寄贈対象となった各国のバレーボール協会 (NF) との友好を結び、連携強化を図った。

## (3) 講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定・登録事業

### ① 競技者拡大

近年の競技人口が減少しているという現状から、競技者を増やすことは喫緊の課題である。競技者の更なる拡大・競技の継続に向け、新規事業を立ち上げ競技者拡大を図ることを念頭に、今年度は以下の事業を実施した。

#### 1) V リーグ選手と一緒にバレーボール教室

小学生のバレーボール未経験者及び初心者・経験者を対象に、V リーグ選手が講師として参加してのバレーボール教室を全国 6 会場（北海道・沖縄・宮崎・静岡・青森・神奈川）で実施（島根・京都教室は台風により中止）。参加人数：672 名

#### 2) 全国小中学生一貫バレーボール教室

小中学生を同一会場に集め、現カテゴリーから次のカテゴリーへの移行に伴う競技の継続を図ると共にバレーボール人口の増加を図ることを目的として、全国 5 会場（静岡・北海道・鹿児島・山形・千葉）で開催した。参加人数：830 名（指導者含め）

#### 3) 幼稚園・保育園等でのソフトバレーボール（風船等）実践事業

ソフトバレーボールを通して、幼児期にバレーボールの楽しさを伝えるとともに、ボールを使ったコーディネーショントレーニングを実践し、幼少期の運動能力・発育を促すことを目

的として、全国7か所会場（北海道・秋田・栃木・三重・鳥取・長崎・沖縄）で実施。

参加者：392名

4) 小学生・中学生競技継続推進大会（アンダー10キッズ交流大会・中学生ビギナー大会）

小学生・中学生のチーム内でレギュラー以外の選手の競技継続を目的とした大会を開催し、ボール競技を楽しむと共に、経験の少ない初心者でも意欲的に取り組むきっかけを目的として大会を開催。

\*小学生アンダー10キッズ交流大会：全国18会場で開催（宮城・群馬・福井・青森・東京・埼玉・静岡・岡山・石川・福島・山梨・大阪・福岡・高知・滋賀・島根・長崎・鳥取）

参加児童数：合計 5,254名

\*中学生ビギナー大会：全国10会場で開催（北海道・東京・富山・長野2回・静岡・京都・岡山・高知・福岡）

参加選手数：合計 1,560名

②指導者養成・認定事業

各種別の指導者を対象に以下の主な養成講習会等を開催した。

1) 都道府県別バレーボール指導者研修会

各都道府県における指導者の資質向上とクラブや部活動における諸問題の解決を図るための研修を行うと共に、これから、地域において新たに指導者を目指す者の育成と普及・振興を目的として、全国16か所（山形・宮城・茨城・群馬・埼玉・東京・山梨・静岡・岐阜・滋賀・鳥取・岡山・山口・高知・佐賀・熊本）で開催。参加者：666人

2) 日本スポーツ協会からの受託事業として、日本スポーツ協会公認上級コーチ、コーチ、上級指導員、指導員、バレーボール専門教科認定講習会等、資格取得に向けたバレーボール専門科目の講習会を実施。

\*公認上級コーチ・公認コーチ

一日時：8月4日(土)～8日(水)

一場所：明治学院大学

一修了者数：上級コーチ 16名、コーチ 18名

\*公認上級指導員・公認指導員

一日時：全国各地で開催

一場所：北海道、東京、長野、新潟、静岡、愛知、岐阜、三重、奈良、兵庫、京都、島根、鳥取、岡山、広島、香川、沖縄

一修了者数：上級指導員 39名、指導員 988名

3) 本会公認講師認定講習会・公認講師研修会・公認指導者研修会

本会が開催する講習会の講師を務める指導者を対象として、認定講習会及びスキル向上のための研修会を開催。

\*公認指導者研修会

一日時：8月25日(土)～26日(日)

一場所：大阪府（ホテルマイステイズ新大阪コンファレンスセンター）

一受講者数：42名

\*公認講師認定研修会

一日時：12月15日(土)～16日(日)

一場所：東京都（ホテルマイステイズ五反田）

一認定者：9名



4) 全国小学生バレーボール指導者研修会

小学生に正しく、楽しいバレーボールを指導するための指導方法について研修し、指導者の資質向上を目的として第一次・第二次・第三次講習会を開催。

\*一次講習会

ー場所：全国4会場で開催

ー受講者数：560名

\*二次講習会

ー場所：全国4会場で開催

ー受講者数：325名

\*三次講習会

ー場所：全国3会場で開催

ー受講者数：232名

5) 全国中学生バレーボール指導者研修会

中学生への指導方法を把握すると共に、指導者の資質の向上と現在の諸問題を解決することを目的に研修会を実施。

ー場所：全国13会場で開催（北海道2回、宮城、茨城、長野、岐阜、石川、大阪、兵庫、山口、愛媛、大分、沖縄）

ー参加者数：510名

6) ビーチバレーボール指導者研修会

ビーチバレーボールの技術向上に関する指導者研修会とクリニックを開催

ー日程：2月16日(土)～17日(日)

ー場所：沖縄県中頭郡西原町「西原きららビーチ」

ー参加者数：指導者研修 31名

③審判員等養成・育成事業

講習会・研修会名等	開催期間	開催地・会場等
全国審判委員長研修会・全国6人制審判講習会	2019/3/23～24	東京文具共和会館・慶応義塾中等部
全国9人制審判講習会	2019/3/31	住友電工(株)大阪製作所
全国ラインジャッジクリニック	4/29～5/1	丸善インテックアリーナ
国際審判員（候補）審判技術強化事業	4/29～5/2	丸善インテックアリーナ
ブロックA級審判員講習会	4/1～8/31	全国9ブロックで開催
A級候補審判員講習会（ACキャンプ）	8/11～14	近畿大学
9人制特別A級候補審判員講習会	5/2～4	住友電工(株)大阪製作所
B級審判員レフェリーキャンプ	8/14～16	近畿大学
Vプレミア・チャレンジリーグ研修	5～10月	V1,V2,V3 チーム
A級審判員研修会（6人制）	11/26～11/28	大田区総合体育館他
A級審判員研修会（9人制）	11/29～12/1	丸善インテックアリーナ

④審判員資格認定事業

本会審判規則委員会および都道府県バレーボール協会の連携により、下記の審判資格認定と登録を行った。

○A級審判員    ○A級候補審判員    ○B級審判員    ○C級審判員

○レフェリーインストラクター

※ビーチバレーボール審判員（ビーチバレーボール講習会開催事業参照）

(4) 全国大会等国内競技会開催事業

① 天皇杯・皇后杯全日本選手権大会（男女大会）

国内最高峰に位置づけられている大会で、開催都道府県および各ブロックの協力のもと、JOC カップ選抜チームがブロックラウンドに出場することができた。また、ファイナルラウンドでは大会プロモーションを含めた様々な企画を取り入れたことにより盛会に終了することができた。

■都道府県ラウンド：

開催期間：4月29日～7月29日

開催場所：各都道府県内体育館（男子487、女子433チーム参加）

■ブロックラウンド：

開催期間：9月1日～10月21日

開催場所：各ブロック内体育館（男子125、女子119チーム参加）

■ファイナルラウンド：

開催期間：12月14～16日、22～23日

開催場所：武蔵野の森総合スポーツプラザ、大田区総合体育館

12/14～23の入場者数：17,332人（昨年：17,917人）

優勝 男子：JTサンダーズ、女子：久光製薬スプリングス

② 全日本小学生大会

■都道府県大会：

開催期間：4月28日～7月8日

開催場所：各都道府県内体育館（5,098チーム参加：男子930、女子3,604、混合564）

■全国大会：

開催期間：8月7～10日

開催場所：川崎とどろきアリーナ他（都道府県代表137チーム参加）

優勝 男子：伊万里男子（佐賀県）、女子：はやぶさ（滋賀県）

混合：比叡平（滋賀県）

③ 全国都道府県対抗中学大会

開催期間：12月25～28日

開催場所：丸善インテックアリーナ、エディオンアリーナ大阪（96チーム参加）

優勝 男子：福岡県 女子：東京都

④ 全日本バレーボール高等学校選手権大会

開催期間：2019年1月5～7日、1月12～13日

開催場所：武蔵野の森総合スポーツプラザ（104チーム参加）

優勝 男子：洛南高等学校（京都府）、女子：金蘭会高等学校（大阪府）

⑤ 秩父宮賜杯・秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会

開催期間：11月26日～12月2日

開催場所：大田区総合体育館他（男女各64チーム参加）

優勝 男子：早稲田大学、女子：筑波大学

⑥ 前記各競技会に加え本会主催、開催地都道府県協会等の主管により、以下の各種別全国大会を開催した。※詳細は本会のホームページをご覧ください。

大会名等	開催期間	会 場
全日本9人制バレーボールトップリーグ 女子 レギュラーラウンド ファイナルラウンド	6/2～7/22 8/10～11	大垣市総合体育館、広島グリーンアリーナ、 吉田文化体育センター、元気フィールド仙台 墨田区総合体育館
全日本9人制バレーボールトップリーグ男子	10/6～8	福山市体育館
全日本9人制実業団女子選手権大会	7/20～22	元気フィールド仙台
全日本9人制実業団男子選手権大会	7/20～23	セキスイハイムスーパーアリーナ
全日本9人制クラブカップ男子選手権大会	7/26～29	維新百年記念公園スポーツ文化センター他
全日本9人制クラブカップ女子選手権大会	8/10～13	久留米アリーナ他
全国9人制社会人西ブロック男女優勝大会	10/19～21	桜井市芝運動公園体育館他
全国9人制社会人東ブロック男女優勝大会	11/9～11	富山市総合体育館他
全日本9人制総合女子選手権大会	11/29～12/2	丸善インテックアリーナ他
全日本9人制総合男子選手権大会	11/29～12/2	丸善インテックアリーナ他
全国6人制バレーボールリーグ総合男女優勝 大会 決勝リーグ・グランドチャンピオンマッチ	2019/1/26～3/10 2019/3/9	決勝リーグ 各会場 岸和田市総合体育館
黒鷲旗全日本男女選抜優勝大会	4/30～5/5	丸善インテックアリーナ
全日本クラブカップ女子選手権大会	7/26～29	宇都宮市体育館他
全日本クラブカップ男子選手権大会	8/17～19	丸善インテックアリーナ他
全国ヤングクラブ優勝大会	9/22～23	東和薬品 RACTAB ドーム他
全国ソフトバレー・シルバーフェスティバル	9/22～24	アオーレ長岡
全国ソフトバレー・レディースフェスティバル	10/26～28	草津市立総合体育館
全国ソフトスポレクフェスティバル	11/30～12/2	サオアリーナ
全国ソフトバレーフリーフェスティバル	2019/2/16～17	町田市立総合体育館
全国ヴィンテージ8'S 交流大会	11/2～4	名護 21世紀の森体育館他
全国ママさんバレーボール大会	8/2～5	グリーンアリーナ神戸他

⑦公益財団法人日本スポーツ協会との共催により、以下の大会を実施した。

- 1) 国民体育大会バレーボール競技  
開催期間：10月5日～8日 会場：福井県あわら市・坂井市
- 2) 日本スポーツマスターズ2018→※北海道胆振東部地震の影響により開催が中止  
(開催期間：9月15日～18日 開催場所：北海道札幌市)

⑧公益財団法人全国高等学校体育連盟等との共催により、以下の大会を開催した。

- 1) 全国高等学校総合体育大会男子バレーボール競技  
開催期間：7月26日～30日 開催場所：三重県伊勢市
- 2) 全国高等学校総合体育大会女子バレーボール競技  
開催期間：8月1日～5日 開催場所：三重県津市
- 3) 全国高等学校定時制・通信制大会  
開催期間：8月1日～5日 開催場所：神奈川県平塚市

⑨公益財団法人日本中学校体育連盟等との共催により以下の大会を実施した。

全日本中学校バレーボール選手権大会

開催期間：8月21日～24日 開催場所：島根県松江市

(5) V. LEAGUE 開催及び開催支援事業

Vリーグ機構が主催するV. LEAGUEについて、日本代表の活動に軸を置く本会と国内最高峰のリーグ戦を展開するVリーグ機構との共催によって、バレーボール界の普及・発展のために大会運営および各種事業を共同で開催した。

また、全国各地で開催されるV.LEAGUEに、競技運営責任者(JURY)と審判員等を派遣し、大会運営における支援を行った。

(6) 地域グループの育成および強化事業・バレーボール教室支援事業

本会の加盟団体および全国的に組織されたバレーボール競技団体の選手の発掘・育成と強化を目的に、運営のサポートや各種事業の支援を行う。

①エリートアカデミーオーディション・エリートアカデミー年末合宿

将来の日本代表、アンダーカテゴリーの代表につながる可能性のある選手を小学生から発掘し、その選手の成長を見続けることを目的として実施。

\*エリートアカデミーオーディション合宿

－日程：8月15日(水)～17日(金)

－場所：味の素ナショナルトレーニングセンター

－参加人数：小学生 男子 31名、女子 31名

\*エリートアカデミー年末合宿

－日程：12月26日(水)～29日(土)

－場所：大阪産業大学体育館

－参加人数：小学生 男子 14名、女子 14名 中学生 男子 13人、女子 10人

②中学生長身者合宿

将来の日本代表につながる可能性のある長身選手を発掘することと、育成を目的として実施。

\*全国中学生長身選手発掘合宿

－日程：2月8日(金)～11日(月)

－場所：味の素ナショナルトレーニングセンター

－参加人数：男子 49名、女子 50名

\*日本代表選抜1次・2次合宿

－日程：1次合宿 10月11日(木)～14日(日)

2次合宿 1月11日(金)～14日(月)

－場所：1次合宿 岩手県オガールベース体育館

2次合宿 味の素ナショナルトレーニングセンター

－参加人数：1次合宿 男子 30名、女子 30名

2次合宿 男子 12名、女子 12名

※上記日本代表選抜チームは2月20日(水)～28日(木)まで男子：オーストラリア、女子：オランダとの対外試合を実施。

### ③高校生身長選手発掘育成合宿

全国各地でバレーボール競技を続けている長身高校生を各ブロック合宿に招集し、その中から将来日本の代表となる可能性のある選手を発掘し、毎年2月に長身選手を一堂に会した「ジュニアオールスタードリームマッチ大会」から選抜選手を選考する。

#### \*全国9ブロック高校生身長者合宿

－日程：8月17日(金)～9月16日(日) 全国9ブロックで実施

－場所：全国9ブロック(北海道、福島、神奈川、石川、岐阜、大阪、広島、高知、鹿児島)

－参加人数：各ブロック男子・女子14名～24名程度選出

#### \*ジュニアオールスタードリームマッチ

－日程：2月16日(土)～17日(日)

－場所：大阪府枚方市「パナソニックアリーナ」

－参加人数：全国各ブロックから選出された男子・女子各27名～30名

全国高等学校選手権大会から選出された選手 男子・女子各18名～20名

### (7) ビーチバレーボール事業

#### ①競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

##### 1) ビーチバレーボール男女日本代表チーム

2020東京五輪においては男子がベスト8、女子がメダル獲得を最大の目標とし、有力選手の強化と国際大会への派遣を行う。

・第18回アジア競技大会(インドネシア、8/19～28)

☆成績：男子：9位白鳥一上場・清水一長谷川

女子：準優勝石井一村上・5位長谷川一二見

・FIVBワールドツアー(2018.4～2019.3月まで約60大会開催)

内、男子は強化指定各選手2大会に派遣(その他は各選手自主参加)。女子はランク別に大会出場補助金を支給して強化を図る(主な成績は下記の通り)

☆成績：男子：1 Star 優勝 石島一高橋

女子：2 Star 優勝 鈴木一村上・3 Star 3位 石井一村上・石坪一柴

・AVCアジアツアー

☆成績：AVCアジア選手権 男子5位西村一上場 女子3位石井一村上

AVCドーハ大会 男子3位石島一上場

AVCカントー大会 女子3位草野一西堀

##### 2) ビーチバレーボール世代別男女日本代表チーム

将来有望選手の発掘、育成、強化を目的に、選抜した選手を十分な準備を行った上で以下の世代別国際大会に派遣した。計画的な発掘・育成を通じた長期的な強化を目指し、U-19ナショナルチームを常設する。また、2019年度に向けて強化カテゴリーを拡大した選考会とトライアウトを実施した。

・AVC U19アジア選手権大会(タイ、3/23～25)

[試合結果：男子9位 塩川一安達 女子5位 関一三好]

・FIVB U19世界選手権大会(中国、7/10～16)

・FISU(国際大学スポーツ連盟) 世界大学選手権大会(ドイツ、7/9～13)

[試合結果：男子25位 原田一柴田 28位北川一黒川]

女子14位 石坪一柴 15位坂口一村上]

- ・U-17・19・21 ビーチバレーボール日本代表選手選考会（神奈川、12/22～23）
- ・U-17・19・21 ビーチバレーボールトライアウト（神奈川、3/2～3）
- ・AVC U21 アジア選手権大会（タイ、3/15～18）

## ②講習会開催事業

### 1) ビーチバレーボール審判講習会

ビーチバレーボールの審判員・競技者を対象に、ビーチバレーボールブロック審判講習会を開催。更に、ビーチバレーボール選手及び指導者を対象に、ルール説明会を開催。

講習会名等	開催期間	開催都市	参加者数
全国ビーチバレーボール審判講習会	2019/3/31	神奈川県	200人
ビーチバレーボールブロック審判講習会	4～5月	茨城県、福井県	100人
ビーチバレーボール審判員研修会	8月	神奈川県川崎市	30人
A級審判員研修会（ビーチバレーボール）	8/16～19	大阪府岬町	30人
ビーチバレーボール指導者研修会	5～10月	会場調整中	100人
ビーチバレーボールコーチ・スキルアップ研修会	2019/2/23	神奈川県	50人

## ③全国大会等国内競技会開催事業

### 1) ジャパンビーチバレーボールツアー

2016年度の大会リニューアルより引き続き、日本におけるビーチバレーボール競技のより一層の確立と、日本から世界に羽ばたくビーチバレーボール選手の輩出を目的として、4～10月に全国各地で大会を開催した。今年度はシーズン拡大のために例年5月の開幕を4月に前倒しし、またメディア露出の見込める新開催地を追加することができ、国内における普及に向けて前進できたと考えている。また競技全体の商品価値を高めるべく、まずはジャパンツアーのプロモーション拡充やブランディング強化を図った。都市圏での開催増加も含めて来場者も増加傾向にあり、盛況のなか開催することができた。

＜2018年度開催日並びに開催都市、参加チーム数、優勝チーム＞

大会名	開催期間	開催都市	参加チーム数	優勝チーム
第1戦 沖縄大会	4/14 ～4/15	沖縄県中頭郡 西原町	男子：16 女子：15	西村晃一/越川優 石井美樹/村上めぐみ
第2戦 東京大会	5/3 ～5/5	東京都港区	男子：12 女子：12	清水啓輔/長谷川徳海 鈴木悠佳子/坂口佳穂
第3戦 平塚大会 ガラナ・アンタルチカ杯	6/9 ～6/10	神奈川県平塚市	男子：15 女子：15	清水啓輔/長谷川徳海 石井美樹/村上めぐみ
第4戦 南あわじ大会	6/30 ～7/1	兵庫県南あわじ市	男子：16 女子：16	高橋巧/石島雄介 宮川紗麻亜/藤井桜子
第5戦 行橋大会	7/15 ～7/16	福岡県行橋市	男子：16 女子：13	高橋巧/石島雄介 西堀健実/草野歩
第6戦 大洗大会	7/28 ～7/29	茨城県東茨城郡 大洗町	男子：16 女子：15	上場雄也/永井雄太 鈴木千代/村上礼華
第7戦 若狭おばま大会	8/4 ～8/5	福井県小浜市	男子：16 女子：16	庄司憲石/池田隼平 石井美樹/村上めぐみ
第8戦 松山大会	9/1 ～9/2	愛媛県松山市	男子：12 女子：12	高橋巧/石島雄介 石井美樹/溝江明香
第9戦 都城大会 第19回霧島酒造オープン	9/15 ～9/17	宮崎県都城市	男子：12 女子：12	白鳥勝浩/Thomas Hartles 西堀健実/草野歩
ファイナル グランフロント大阪大会	9/22 ～9/23	大阪府大阪市	男子：8 女子：8	高橋巧/石島雄介 石井美樹/村上めぐみ

## 2) 国民体育大会ビーチバレーボール競技（正式競技）

大会名等	開催期間	開催都市	参加チーム数	優勝チーム
第73回国民体育大会	9/9 ～9/11	福井県小浜市	男子：16 女子：16	愛媛県（長谷川徳海/庄司憲右） 神奈川県（石坪聖野/柴麻美）

## 3) 日本選手権

各世代の日本一を決める日本選手権大会として、本年は以下の日程で実施した。  
ビーチバレージャパンは台風の影響により、期間を1日短縮（8/10を準備日に充当）して開催した。

大会名等	開催期間	開催都市	優勝チーム
第17回全日本ビーチバレージュニア男子選手権大会	8/3 ～8/6	大阪府阪南市	大阪府・常翔学園高等学校 （亀山/畑中）
第30回全日本ビーチバレー大学男女選手権大会	8/7 ～8/9	神奈川県川崎市	神戸学院大学（中川/斎藤） 松山東雲女子大学（村上/坪内）
ビーチバレージャパン女子ジュニア選手権大会	8/9 ～8/12	愛媛県伊予市	兵庫県 （刑部/藤原）
第32回ビーチバレージャパン	8/11 ～8/12	神奈川県藤沢市	上場雄也/白鳥勝浩 西堀健実/草野歩
第9回全国中学生ビーチバレー大会	8/12 ～8/13	神奈川県藤沢市	NAGASAKI（長崎県佐世保市） 大阪市立西中学校（大阪府大阪市）
第29回全日本ビーチバレー女子選手権大会	8/16 ～8/19	大阪府泉南郡岬町	西堀健実/草野歩

## (8) マーケティング事業

公益事業を安定的に推進すべく、バレーボールの社会的な価値の向上および本会が所有する各種プロパティの価値を向上するために適切なプロモーション活動を行い、本会事業の推進に賛同いただいている協賛社とのパートナーシップ強化および新規協賛社の獲得を積極的に行った。

## (9) バレーボール用品・用具の公認・推薦事業

競技の公正、安全で競技者が安心して楽しくプレーできるように、ボール、ネットや用品・用具の公認・推薦の認定を行うとともに、競技者及び体育施設等へ、より良い用品・用具が提供されるよう、販売・製造事業者への働きかけを行った。また、バレーボール用品・器具のメンテナンス徹底について、継続的に全加盟団体に働きかけ、事故予防に努めた。公認審判員やソフトバレーリーダーなどに対しては、資格保有者としての自覚を促すため、公認物品の販売を通してその着用を推奨した。

## (10) ルールブック販売事業

バレーボールの愛好者、審判員、指導者をはじめとする多くの国民に対し、最新のルール情報を提供するために、公認ルールブックであるバレーボール6人制競技規則、同9人制競技規則、ソフトバレーボール競技規則、ビーチバレーボール競技規則を出版・販売した。

## (11) 肖像使用・バレとも・物品販売等公益事業の財源を獲得する事業

公益事業を安定的に推進すべく、以下の3事業を行った。

### ① 肖像使用許諾事業

本会登録選手の肖像権等の管理運営を行い、肖像権使用料収入を得て、一定額を肖像が使用された選手等に配分した。

② バレともサイト運営事業

本会のホームページに立ち上げているバレともサイトの運営を通じて、会費をいただき、チケットの先行販売、会員ならではの有用な情報を提供したが、2019年2月1日より新たに「バレともチケット」のサービスに特化したチケット販売サービスに移行した。

③ バレーボール関連グッズの販売事業

バレーボールの魅力を高め、見る、する人口の拡大に貢献するような商品の開発、販売を行った。

(12) 東京 2020 大会準備室

東京 2020 大会におけるバレーボール競技、ビーチバレーボール競技及びシッティングバレーボール競技の成功に向けて、以下の活動を推進した。また、「JVA 東京オリンピック・パラリンピック競技大会準備委員会」を 2018 年度において 7 回開催した。

- ① FIVB との連携の中、競技施設、競技運営、テストイベントにかかわる諸準備を行った。
- ② ボランティア募集のための準備を行った。
- ③ 9 月～10 月の世界選手権女子大会を活用し、バレーボール競技役員の研修を行った。
- ④ 世界選手権女子大会後、FIVB 役員の指導の下、ビーチバレーボール競技役員の研修を行った。
- ⑤ 開催地協会主催で競技役員の語学研修会を行った。
- ⑥ シッティングバレーボール審判役員については千葉県協会の協力により研修を行った。
- ⑦ 8 月に組織委員会主導の東京 2020 大会の告知イベントに積極的に参加した。
- ⑧ レガシー推進部が中心となり、バレーボール用語の統一を行った。
- ⑨ 「アスリートファースト」及び「レガシープラン」を念頭に、東京都オリンピック・パラリンピック準備局及び公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との緊密な連携と積極的な協力のもと、各種の準備を進めた。

(13) その他の重点項目

- ① コンプライアンス、ガバナンスの強化を推進する。  
特に、体罰・暴力・ハラスメントの撲滅については、深刻な事態が発生したことを受け、従来からの起きてしまった事案への対応に加え、予防対策にも重点を置くこととした。
- ② 人事制度の整備  
2017 年 10 月から導入した人事評価制度も定着しつつある。2018 年 10 月からは管理職の業績評価制度も新たに導入した。
- ④ 本会ホームページに NF ならではの競技データを盛り込み、シニアカテゴリーだけでなく次代を担うアンダーエイジカテゴリーの情報を充実させた。力のある媒体にバレーボールの魅力を載せる広報戦略により、バレーボールの情報を広く発信させた。
- ⑤ 本会の MRS（個人登録管理システム）再構築により、当初登録に際して分かりにくい部分があったため、登録者の意見や要望を受け、必要に応じて改善を図った。また、大会管理部分において若干の改修・改善を行った。今後は具体的な MRS 会員の獲得に向けて更なる検討を行っていく。
- ⑥ V リーグ機構との定期的なミーティングができなかったため、主要事業の小委員会を積極的に実施し、大会運営やその他の事業についても共同で開催することを確認した。
- ⑦ 競技の高潔性を保ちアンチ・ドーピングを遵守するため、世代を問わずアスリートにアンチ・ドーピング教育を実施し、徹底を図った。 以上